

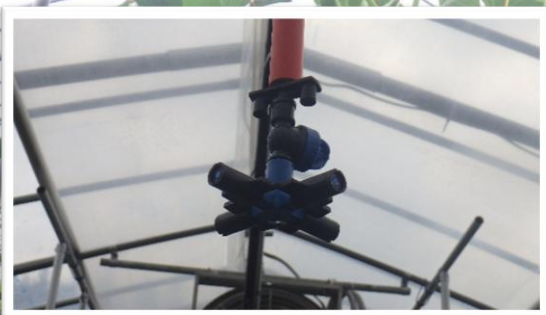
けんぽく農林 ニュース

令和8年7月30日

第 110 号



～「くだもの・きゅうり・花き王国の飛躍
と農林業の持続的な発展」～



二本松市のキュウリハウスにミスト冷房及び環境測定システムを設置し、高温環境下の最適化検証試験を行っています。成果をまとめ、品質向上・安定生産の指導に努めてまいります！（ICT 活用園芸産地革新モデル確立事業）

今号の 主な内容



雨よけ栽培で実証中！！急げ、きゅうりの高温対策！	P 1
ＪＡふくしま未来伊達地区本部農業塾が開講！	P 1
樹園地継承の取組推進	P 3
歴史ある用水堰をスマホで遠隔操作	P 4
園芸作物及び林産物緊急時モニタリング説明会	P 4
高谷沼地区ため池の改修工事と遠隔臨場検査	P 5
地域の安全を支える治山施設	P 6
農業災害に備える	P 7
安達地方の指導農業士が「あだたらの恵」田植え式を支援	P 7
国見小学校児童が「天のつぶ」の田植え	P 8
地元産米を使った酒づくりを県議会農林水産委員会が調査	P 9
国見モモ共選場の新選果設備稼働式	P 9
6次化商品の魅力アップ！重点支援事業を活用しましょう	P10
林業アカデミーふくしま就業前長期研修生募集	P11
「東和の白髭棚田」と「東和の針道棚田」が国の指定棚田になりました	P12
#福もも 2026 おいしいふくしまいただきます！SNS キャンペーン	P13

雨よけ栽培で実証中！！ 急げ、きゅうりの高温対策！

安達農業
普及所

令和8年6月24日（水）、二本松市内のきゅうりの雨よけハウスに設置したミスト冷房装置と環境測定装置の実証ほにおいて、安達管内市村、生産者代表、ＪＡふくしま未来、農業総合センター等を構成員とした「安達地域 ICT 活用園芸産地確立推進協議会」による現地検討会を開催しました。

安達地域は県内でも有数の夏秋きゅうりの産地ですが、近年の異常高温や少雨等の影響により、収量や品質等への悪影響が見られ、早急な対策が求められています。

特に、施設化とかん水装置の普及拡大を進める中であって、夏場の50℃を超えるハウス内温度をどのように下げ、最適な栽培環境にできるか、現地の実情を踏まえた実践的な技術とするために、生産者の協力を得ながら、ミスト冷房装置の実証データを蓄積し、今年度中にマニュアル化することとしています。

収穫量等のデータ収集は5月から本格的に開始し、クラウドデータを見ながらミスト噴霧の最適なタイミングを検討しており、検討会では、生産者から栽培状況を伺う等して、活発な意見交換が行われました。



(左)生産者より、ミスト冷房装置を導入した雨よけハウスでは、きゅうりの側枝の発生や果形等に良い効果を与えていると、実証技術に大きな期待を持って、お話いただきました！

(右)ミスト冷房装置が設置されたハウス内を見学する参加者

ＪＡふくしま未来 伊達地区本部農業塾が開講！

伊達農業
普及所

令和8年5月28日（木）、伊達市保原町のＪＡふくしま未来伊達地区本部において、令和8年度ＪＡふくしま未来伊達地区本部農業塾開講式が開催されました。

農業塾は、産地の新たな担い手となる農家の育成を目的として、平成19年から実施しており、今年で18回目を迎えました。農業塾のコースは、伊達地域の基幹品目である、「もも」「きゅうり」「あんぽ柿」の3コースがあり、それぞれ年6回の講座を通して、基礎的な栽培管理技術や病虫害防除などの内容を学びます。

今年度は、「もも」コース15名、「きゅうり」コース11名、「あんぽ柿」コース7名（複数受講者含む）の受講者が座学や現地ほ場で学ぶ予定となっています。

開講式では、ＪＡふくしま未来渡邊弘克伊達地区本部長の主催者挨拶に続いて、伊達農業普及所松野所長が、「園芸産地の担い手として基礎をしっかりと学んで、それぞれの品目において実践を兼ねた技術習得を目指してほしい」等、受講者へ期待を込めた祝辞を述べました。

開講式終了後は、各コースに分かれて第１回目の講義（あんぽ柿コースは第２回目の講座から）が行われ、受講者は熱心に聞き入り、メモをとる姿が見られました。

本農業塾は、園芸産地を支える担い手を育成するための重要な取組であり、伊達農業普及所としてもＪＡふくしま未来と緊密に連携して活動を展開してまいります。

農業塾年間プログラム

1 ももコース

5月	講義	ももづくりの基礎
6月	講義	農薬使用の基礎、病害虫の基礎
	実習	仕上げ摘果作業
7月	講義	収穫前の管理
	施設見学	共選場見学、光センサー、選果票の見方
9月	講義	施肥の基本、土づくり基礎、秋季防除
	実習	秋季剪定と管理方法
12月	実習	整枝・剪定方法
	研修	農業税務研修申告の仕方について

2 きゅうりコース

5月	講義	きゅうりづくりの基礎
6月	講義	農薬使用の基礎、病害虫の基礎
	実習	管理作業
7月	講義	病害虫対策、農薬使用と追肥管理
	実習	整枝・摘葉作業、収穫作業の手法、管理作業
9月	講義	病害虫対策、長期収穫のポイント
	実習	整枝・摘葉作業
10月	講義	次年度に向けたほ場の準備
12月	研修	農業税務研修申告の仕方について

3 あんぽ柿コース

6月	講義	農業使用の基礎、病害虫の基礎
	実習	摘果作業
11月	講義	収穫と加工方法について
	実習	収穫作業と選別について
	講義	干場管理について
	実習	出荷包装の方法
12月	実習	整枝・剪定方法
	研修	農業税務研修申告の仕方について



あいさつする 松野 伊達農業普及所長



樹園地継承の取組推進

農業振興
普及部

県北農林事務所では、高齢化等でリタイアする農業者の樹園地を、果樹経営を始めたい農業者等に継承する取組をすすめています。

令和8年5月14日(木)、「令和8年度第1回果樹園地継承に係る連携推進会議」を開催し、令和8年度の取組として、樹園地の出し手、新規就農者等の借り手の情報収集、農業者への周知方法などを関係機関・団体と協議しました。

また、「弘前市園地継承円滑化システム」を構築し、樹園地継承に全国でもいち早く取り組んでいる弘前市農林部職員から、取組の紹介及びアドバイザーとして、県北農林事務所管内の取組に対する御意見をいただきました。

特に、福島市は、もも、りんご、なし、ぶどうを中心に県内で有数の果樹産地ですが、農業者の高齢化や後継者不足により、将来的に「廃園」や「伐採」を考えている農業者が多い状況です。このため市では、福島市農政部、福島市農業委員会、ＪＡふくしま未来福島地区本部、農業振興普及部など9つの関係機関・団体が連携して、樹園地継承の取組を支援しています。

県内の新規就農者は増加傾向にあり、令和7年度には調査開始以来最多となる391名が就農しました。そのうち、県北地域が111名を占め、県内で最も多い新規就農者数となっています。

他業種から転職し果樹栽培を希望する新規就農者については、多くの方がすぐに栽培に取り組める樹園地を求めています。本記事を読んで、次の世代に樹園地を継承してみようと思われた方は、次の連絡先まで御相談ください。

【連絡先】

福島市農業委員会事務局・・・・・・・・・・・・電話：０２４－５２５－３７７９

福島市農業企画課農業担い手係・・・・・・・・・・・・電話：０２４－５２５－３７４０

福島県県北農林事務所農業振興普及部経営支援課・・・・・・・・電話：０２４－５２１－２６０９

ＪＡふくしま未来福島地区本部営農企画課・・・・・・・・・・・・電話：０２４－５５４－５５３２



協議の様子



歴史ある取水堰をスマホで遠隔操作

農村
整備部

福島市にある井野目堰（いのめぜき）は、摺上川支流の小川を堰止めて引水し、下流の農地約 150ha へ水を供給しています。今から約 360 年前に造成された歴史ある土地改良施設です。施設の管理者は堰守（せきもり）と呼ばれ、代々地域の方が担っています。

井野目堰の操作は大雨などの気象変化時に行うことが多く、また、クマとの遭遇や落石の危険がある起伏のある山間の管理用道路約 400m を徒歩で往復して行わなければならない、常に危険が伴うものでした。堰守の安全確保と将来にわたる維持管理の継続のため、令和 7 年に農山漁村振興交付金（情報通信環境整備対策）施設整備事業を活用し、遠方監視・遠隔操作設備を整備しました。

リアルタイムで現地状況を確認でき、急激な気象変化があった際も福島市土地改良区事務所で状況に応じた適切な管理が可能となったため、地域の安全確保と安定的な水供給に役立っています。

さらに、操作記録がデータとして残ることで、大雨時の対応状況を客観的に示すことができ、管理者の安心感にもつながっています。



管理用歩道は険しい山道

スマホで遠隔操作



自動化された取水堰

園芸作物及び林産物 緊急時モニタリング説明会

農業振興
普及部

令和 8 年 4 月 27 日（月）、「令和 8 年度県北地方園芸作物及び林産物緊急時モニタリング説明会」を開催し、県北地方の市町村、青果物卸売市場、J A ふくしま未来の職員が参加しました。

県が実施する農林水産物を対象とした緊急時モニタリングは、出荷・販売用の県産農林水産物への放射性物質の影響の把握と安全性の確認及び消費者に対する正確な情報の提供を目的として行っています。なかでも、園芸作物及び林産物は、対象とする品目が多いため、関係機関と連携して県産農林産物の安全性確認を進めることが重要です。

会議では、県北農林事務所担当者から園芸作物及び林産物の緊急時モニタリングに関する説明を行うとともに、本年度の緊急時モニタリングの進め方を確認しました。

県北農林事務所では、関係機関・団体と協力し、緊急時モニタリングの円滑な実施と、出荷制限品目等の管理の徹底に引き続き取り組んでまいります。

出荷制限品目については、下記リンクをご覧ください。

山菜やきのこの出荷制限にご注意ください（県北農林事務所ホームページ）

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/tokuyourinsan-seigen.html>

高谷沼地区ため池の改修工事と 遠隔臨場検査

農村
整備部

防災重点農業用ため池に指定されている福島市山口にある高谷沼（こうやぬま）は、堤体（ていたい）からの漏水が確認され、決壊の恐れがありました。令和6年度に県営ため池等整備事業にて調査設計を行い、令和7年度から改修工事に着手しましたが、令和8年4月22日（水）に工事が完了し、今年の作付けに使用する農業用水を安全に貯水しています。

県では、効率的な工事検査の実施と検査時間の短縮のため、DXを推進しています。その取組の一つが遠隔臨場検査（えんかくりんじょうけんさ）です。

高谷沼地区ため池の竣工検査（しゅんこうけんさ）では、県北農林事務所初となるインターネット双方向通信を活用した「遠隔臨場検査」により行いました。現地と会議室をインターネットでつなぎ、検査員は、会議室の大画面上で竣工した工事現場を確認することにより、現地までの移動時間の短縮が図られ、効率的な検査となりました。



高谷沼



管理用道路防護柵の大画面での検査の様子

地域の安全を支える治山施設

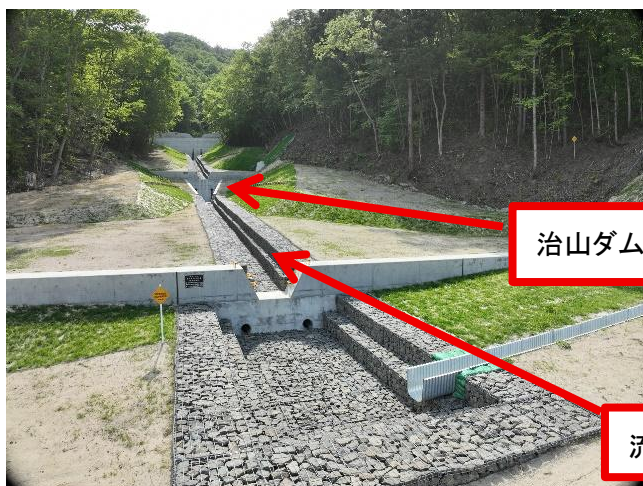
森林
林業部

県北農林事務所では大雨による山からの土砂災害等を未然に防止・抑制するために、森林の防災機能を維持・向上させる施設を新設又は老朽化したものを更新しています。

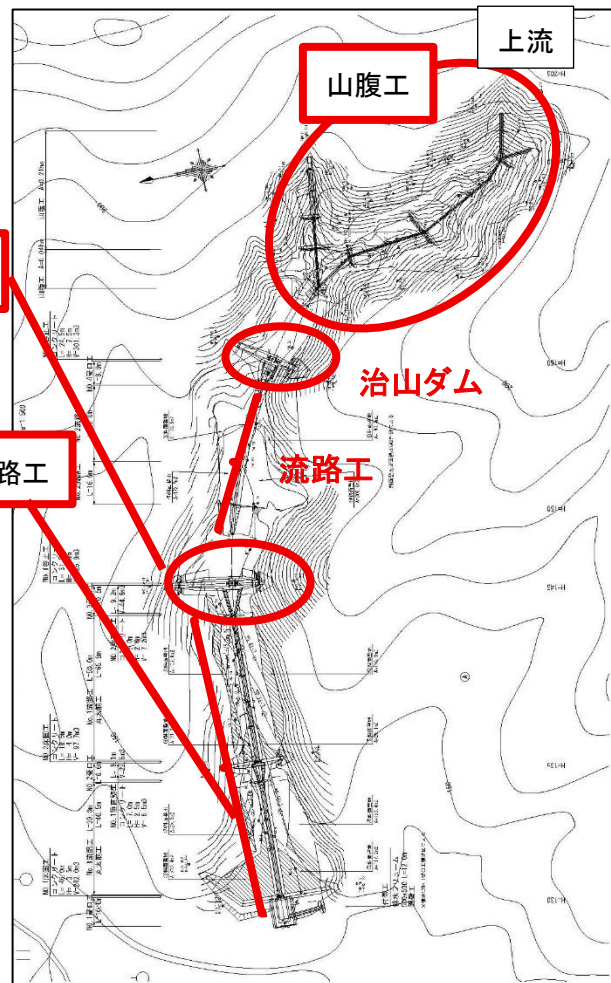
伊達市月舘町御代田地内鞍馬若地区の森林は、令和元年の台風19号の大雨で大量の土砂が流出し、民家や田畑に流れ込みました。そこで、土砂流出の起因となった谷（溪流）の上流から下流の間に以下の3つの施設を設置し、森林の持つ防災機能を強化しました。

- ①山腹工：不安定な土砂が流れないように緑化や土留め等により保全・保護します。
- ②治山ダム：谷の勾配を緩やかにし、大量の雨で発生する急流による浸食を抑制します。
- ③流路工：大量の雨で発生する乱流をコントロールします。

これらの施設は令和7年度に完成し、今後同様の大雨であっても大量の土砂流出を抑制できるようになりました。今後も地域の安全を確保する施設整備を継続して実施してまいります。



最下流から見た治山施設の様子



土砂が流出した溪流と設置した施設の位置関係

農業災害に備える

農業振興
普及部

園芸地帯である県北地方においては、農業気象災害、特に凍霜害への対策が重要です。生産者へ対策技術を周知・指導するとともに、農作物被害が発生した場合は迅速な調査や復旧支援を行う必要があります。

令和8年4月7日(火)に、県北地方の各市町村、JAふくしま未来本店及び各地区本部、伊達果実農業協同組合、福島県農業共済組合、県北農林事務所を構成員とする県北農林事務所主催による県北地方農業災害担当者会議を開催しました。本会議では、果樹の生育情報や防霜対策の方法、災害発生時の迅速な現地調査、被害報告の事務などを共有し、この春の凍霜害は、発生を防止することが出来ました。

また、5月13日(水)に伊達地区を中心に発生した降ひょう被害では、各市町村、JAふくしま未来と連携し、被害状況の調査・報告を迅速に実施しました。現在、調査結果をもとに、被災園地の樹勢回復に向けた技術指導を進めているところです。

引き続き、関係機関・団体と連携し、農業災害の事前対策を周知し、被害の発生防止の徹底を図るとともに、被害発生後の栽培管理支援と経営指導に取り組んでまいります。



県北地方農業災害担当者会議



ひょう害現地調査

安達地方の指導農業士が 「あだたらの恵」田植え式を支援

安達農業
普及所

令和8年5月17日(日)、大玉村において「あだたらの里」ブランド研究会の主催により「第4回農業体験教室『あだたらの恵(めぐみ)』田植え式」が開催されました。

「あだたらの恵」は、昨年10月にデビューした大玉村のブランド米の名称で、栽培方法や食味値など大玉村が定めた独自の基準をクリアしたプレミアムなお米です。

子供たちを含む40名以上が参加し、泥だらけになりながら楽しく田植え体験をしました。このイベントの実施に当たっては、安達地方指導農業士会が田植えの準備や苗づくりを支援し、また、当日は指導農業士3名が地元の生産者とともに、植え方を指導しました。安達農業普及所では、安達地方指導農業士の活動支援として、前日のガジ引き(田んぼに手植えする際の目印をつける作業)と当日の参加者誘導を行い、運営をサポートしました。

これからも、安達地方の指導農業士の方々と連携し、地域農業の振興に向けた活動を続けてまいります。



田植え式の準備をする指導農業士の伊藤洋氏



気温 30℃の中、一生懸命手植えをする参加者達

国見小学校児童が 「天のつぶ」の田植え

伊達農業
普及所

令和8年5月13日(水)、国見小学校は、農業や農作物への理解を深め、食の恵みや豊かさ、大切さを伝えるため、5年生児童54名を対象とした農業体験学習(田植え作業)を行いました。

地域の中心的な担い手である小坂アグリ株式会社が管理する水田において、福島県オリジナル品種の「天のつぶ」を、関係機関・団体、伊達農業普及所のサポートにより子ども達が田植えをしました。

子ども達は、初めて素足で田んぼに入ったようでぎこちない様子でしたが、作業を進めていくにつれ田植えにも慣れていき、泥だらけになりながらも、次第に空いているスペースを自ら見つけて植えていくなど、田植えを積極的に楽しんでいる様子でした。

代表児童からは、楽しく田植えをすることができた、米づくりの大変さを知ることができた等の感想が述べられました。

秋には稲刈りの農業体験学習が予定されており、今後も関係機関・団体と連携しながら安全・安心な米作りや食育活動を支援してまいります。



職員の説明を聴く児童達



田植えを行う児童達

地元産米を使った酒づくりを 県議会農林水産委員会が調査

企画部

令和8年5月27日(水)、県議会農林水産委員会の鈴木優樹委員長はじめ7名の委員が、本宮市の大天狗酒造を訪問し、地元産米を使った酒造りを現地調査しました。

本宮市の大天狗酒造株式会社は、明治5(1872)年創業の歴史ある酒蔵です。創業者が倉庫で見つけた天狗の面にちなんだ社名が付けられました。年間約8トンの原料米を使用し、その約9割に県産米を活用するなど、地域に根差した酒づくりを続けています。

令和5年度に、「県オリジナル酒米産地力強化支援事業」を活用し、酒造用冷却タンクを導入しました。温暖化に対応し、酒を適切な温度で保管できる環境を整備したことで、県産酒米を使用した酒づくりのさらなる充実につながっています。

また、地域との連携による商品開発にも力を入れており、令和6年度には福島県農業総合センターが開発した県オリジナル酒造好適米「福乃香」を使用した純米酒「青春の詩」のラベルデザインを農業短期大学の学生が担当しました。さらに、本宮市の若手農業者組織「本宮若手農業団」と協力し、「福乃香」の栽培から仕込み、瓶詰めまで一体となって取り組み、純米吟醸酒「なないろ」を商品化しました。

県北農林事務所は、県産米の活用と地域との連携を通じた福島ならではの酒づくりを推進し、県産農産物の魅力発信と地域活性化を支援しています。



酒蔵を現地調査



事業を活用して導入したタンク

国見もも共選場の新選果設備稼働式

農業振興
普及部

県北地域を代表するもも産地のひとつ国見町で、国見共選場の新しいもも選果設備が完成し、令和8年6月18日に竣工稼働式が開催されました。新設備は、市場ニーズの変化に対応するため整備されたもので、6月24日から本格稼働しています。

今回の整備では、国の「新基本計画実践・農業構造転換支援事業」を活用して選果レーンを見直し、処理能力と選果精度の向上を実現するとともに、特殊形態レーンの新設により、2kg詰めなどの多様な市場ニーズにも柔軟に対応できる体制を整えました。

また、選果作業の効率化や労働負担の軽減にもつながることが期待されています。

令和9年度には年間1,885トンの処理を目標としており、品質の安定化や販売力の強化を通じて、国見町のもも産地としての競争力向上を目指します。

今年の共選は早生品種「はつひめ」から始まり、光センサー選果機による高精度な選果を行いながら、主力品種「あかつき」などを9月まで順次出荷します。新たな選果設備が高品質なものの安定供給を力強く支えます。



稼働式テープカット



ボタンを押し稼働開始



少量規格が出荷可能に



順調に稼働中

6次化商品の魅力アップ！ 重点支援事業を活用しましょう

企画部

県北農林事務所では、豊かな農林水産資源を生かし、農業者が生産・加工・販売を一体的に行うことや、多様な事業者が連携して新たな価値を生み出す「6次産業化」を推進しています。

その一環として、6次化商品の魅力アップのために、技術支援を必要とする事業者を、県産品加工支援センターの訪問支援や、商品づくりの課題の把握、加工技術の助言や成分分析、品質向上に向けた技術支援などを受けることができる「重点支援事業」の対象に推薦しています。

本宮市の有限会社粧和田屋は、令和5年度に県の事業を活用して伝統ある粧づくりの技術と、県産の桃を組み合わせた、無添加・無着色、ノンアルコールで、小さなお子様から高齢の方まで安心して楽しめる「極み 発酵あま酒『もも』」を開発しました。



さらに、令和7年度は、「重点支援事業」の対象になり、県産品加工支援センターの技術支援により、多数の甘酒系商品の原点である甘酒の保存性の向上に取り組み、事業者の商品管理上の技術が向上しました。

福島の豊かな農産物と伝統技術を生かした地域産業6次化の取組は、新たな魅力ある県産品の創出につながっています。

林業アカデミーふくしま 就業前長期研修生募集

森林
林業部

令和9年度林業アカデミーふくしま就業前長期研修生の募集が始まります。

充実したカリキュラムと研修環境で、1年間基礎から林業の知識と技術を学び、必要な資格を得ることが出来ます。森林・林業に興味のある方や、県内の林業事業体などで働きたい方の応募をお待ちしております。

1 推薦選考（5名程度）

申請期間：令和8年8月3日（月）～9月4日（金）

試験日：令和8年9月16日（水）

2 一般選考（10名程度）

申請期間：「前期」令和8年10月1日（木）～10月23日（金）

「後期」令和8年11月18日（水）～12月7日（月）

試験日：「前期」令和8年11月5日（木）

「後期」令和8年12月17日（木）

※ 前期試験で定員に達した場合、後期試験は実施されません

3 申請先・問合せ先

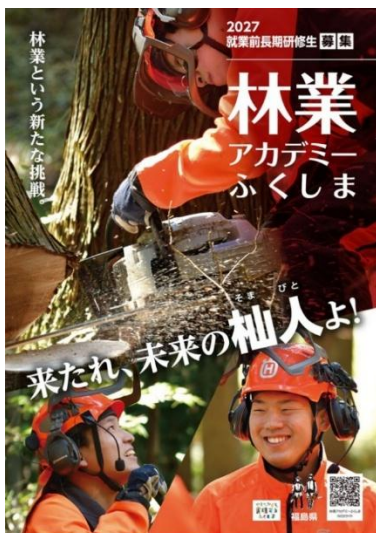
福島県林業研究センター企画研修部（郡山市安積町）

電話：024-945-5974、5975

メール：forestry.rc@pref.fukushima.lg.jp

詳しくは林業アカデミーふくしまのホームページをご覧ください

URL：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/forestry-academy-fukushima/>



林業アカデミーふくしま 研修施設



Instagram



林業アカデミーふくしま
二次元コード

Facebook



「東和の白髭棚田」と「東和の針道棚田」が国の指定棚田になりました

企画部

令和8年6月16日(火)「東和の白髭棚田」と「東和の針道棚田」が認定棚田地域振興活動計画の認定を受け、国の指定棚田となりました。

これまで県北農林事務所管内では、二本松市「東和の布沢棚田」、国見町「大木戸の棚田」、二本松市「西谷棚田」の3棚田が認定されていました。

「東和の白髭棚田」は江戸時代は相馬街道の宿場町として栄え、水の豊富な地域として知られている棚田です。白髭神社や自然の巨石「白髭八景石」など見どころもあり、道の駅「ふくしま東和」で棚田米の販売もしています。秋には、稲刈り体験や収穫祭などのイベントも予定しています。

「東和の針道棚田」は杉内集落・小手森集落・仲組集落の3つの集落が一つになって「東和の針道棚田」が形成され管内で最大の21ha(148枚)棚田群が魅力です。「飾らないありのまま長閑な田園風景」が郷愁を誘うこと請け合いです。各棚田集落内に隣接する、中島の地蔵桜や小手森城址、愛宕神社など見どころも多く、道の駅「ふくしま東和」まで約2kmです。

県北農林事務所では、「ふくしまの棚田」地域にぎわい創出事業により案内板の設置や米袋のデザイン・作成等に係る支援を行っています。

【参考】

◆内閣官房・内閣府総合サイト

ー地方創生ー棚田地域振興「認定棚田地域振興活動計画について」

URL : https://www.chisou.go.jp/tiiki/tanada/shitei/katsudo_keikaku.html

◆県農村振興課ホームページ「福島県内の認定棚田地域振興活動計画について」

URL : <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36045b/tanadaninteikeikaku.html>



田植えを終えた東和の白髭棚田



管内最大級の東和の針道棚田

#福もも 2026 おいしいふくしま いただきます！SNS キャンペーン！

企画部

キャンペーン第一弾は「もも」です！福島県産のももの「おいしさ」が伝わる写真で大募集！皆さん思い思いの写真を撮って、ハッシュタグ「#福もも 2026」を付けてInstagramに投稿してください！応募期間は令和8年7月7日（火曜日）～令和8年8月7日（金曜日）まで。応募いただいた作品の中から10名様に福島県県北産関連商品をプレゼントいたします。詳細は下記県北農林事務所ホームページリンクから応募要領をチェック！！！！

#福もも 2026”「おいしい ふくしま いただきます！」SNS キャンペーンスタート！

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/itacanfukushima.html>

福島県産もも SNSキャンペーン
おいしい ふくしま いただきます！
#福もも2026



福島県産ももの「おいしさ」が伝わる写真で大募集！
福島県産ももの魅力をシェアしよう

応募はかんたん4ステップ

ステップ1
福島県県北農林事務所の公式Instagramをフォロー

福島県県北農林事務所
公式Instagramアカウント

ステップ2
福島県産のおいしいももの写真を撮影

福島県産もも

ステップ3
Instagramでハッシュタグ「#福もも2026」を付けて投稿
(ももの写真と県北産品に限定)


ステップ4
審査の結果、受賞者10名に福島県県北産産物・加工品を贈呈
5,000円程度（2名）
1,000円程度（8名）

こんな写真を待っています(投稿イメージ)



食卓で 果樹園で 収穫で

応募期間
令和8年7月7日(火)～令和8年8月7日(金)

農林水産部公式
Youtube チャンネル



当所ホームページ



当所Instagram



編集・発行 福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課
電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850
ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

